方程式をいじって色々な解を作る: 超対称性量子力学や電磁双対について

中田 陽介

信州大学環境・エネルギー材料科学研究所

8–9. Jan, 2017

イントロ: 超対称量子力学

電気回路にあらわれる SUSY

電磁双対性・バビネの原理

バビネの原理とチェッカーボード

まとめ

イントロ: 超対称量子力学

超対称性とは?

 ボソンとフェルミオンの入れ替えに関する対称性
 ボソンとフェルミオン1つあたりのエネルギーが一致 → 各準位が2重縮退する(基底状態は違う可能性あり)



• |*m*,*n*): ボソン *m* 個, フェルミオン *n* 個

超対称量子力学



エネルギースペクトルが二重縮退する量子系を研究 (最低準位を除いて) (超対称理論における対称性のアナロジを持つ)

坂本 眞人 「量子力学から超対称性へ」, サイエンス社 (2012).

例:2つの調和振動子



ただし $[a, a^{\dagger}] = 1$ スペクトルは最低準位を除いて一致 (あたりまえ)

なぜスペクトルが一致したのか?



調和振動子まとめ



 |n' > = a |n > だが |0' > は作れない (a |0 > = 0 で消えてしまう)

最低準位はペアを組まない可能性がある

-般化 → Witten 模型

$$H_+ = A^{\dagger}A, H_- = AA^{\dagger}$$



SUSY の利点

- 一見異なる系でもスペクトルが対応する
 2つの系の複合系に SUSY の対称性 (交換関係)
- 片方が解けているともう一方の厳密解が求まる
 (厳密解が求まる系は裏に対称性があるから求まるとも言える)

電気回路にあらわれる SUSY

電気回路にあらわれる SUSY

金属構造で超対称性 (SUSY) が現れる例を構成する

• メタマテリアル・プラズモニクスへの展開可能性

方法

- 電気回路で例を構成
 - グラフとライングラフ上の LC 回路網の共鳴スペクトルが一致する
- 高周波領域に適用
 - マクスウェル理論のスケール不変性より

単純*m*-正則グラフG上のLC回路網

- 単純グラフ: 多重辺やループがない
- *m*-正則: 各頂点に*m* 個の辺が接続



 G上のLC回路網:
 辺上に同一コイル, グランドと頂点間に同一コンデンサ 13 of 57



 \sim

コイルとコンデンサの応答

コイル: $L\dot{J} = X^{T}\Phi$ 静電ポテンシャル: $\Phi = [\Phi_{v}]^{T}$ $X_{v_{2}e} = -1$ L v_{2} v_{1} $X_{v_{1}e} = 1$

コンデンサ:





単純m-正則グラフ上のLC回路網の共鳴

$$\ddot{\boldsymbol{q}} = -\omega_0^2 \boldsymbol{\mathsf{L}} \boldsymbol{q}$$

$$q = \tilde{q} \exp(-i\omega t) + c.c. \rightarrow$$

 $L\tilde{q} = \left(\frac{\omega}{\omega_0}\right)^2 \tilde{q}$

グラフラプラシアンの別の表し方

(向きのない) 接続行列: $\bar{X} = [\bar{X}_{ve}]$

$$\bar{X}_{ve} = \begin{cases} 1 & (頂点 v と辺 e が繋がっている) \\ 0 & (それ以外) \end{cases}$$

 $\mathbf{L} = -\bar{\mathbf{X}}\bar{\mathbf{X}}^{\mathrm{T}} + 2m\mathbf{I}$

(m: 頂点の次数, I: 単位行列)

ライングラフL(G)

1. 元のグラフ*G*の辺を*L*(*G*)の頂点とみなす

2. *G* の辺 *e*₁, *e*₂ が共通の頂点を持つ → 対応する *L*(*G*) の 2 頂点を繋ぐ





ライングラフのグラフラプラシアン:

 $\mathsf{L}_{\mathrm{L}} = -\bar{\mathsf{X}}^{\mathrm{T}}\bar{\mathsf{X}} + 2m\mathsf{I}_{\mathrm{L}}$

(I_L:単位行列) 18 of 57

グラフとライングラフ上の LC 回路のスペクトル



共鳴スペクトルが一致しなければならない(最高準位は除いて)

具体例: 有限グラフ



スペクトルが一致(最高準位を除いて)

具体例:6角格子とカゴメ格子



スペクトルが一致 分散も一致 (フラットバンドを除いて)

金属6角格子・カゴメ格子





(SUS304 製,厚み: 30µm)

回路モデルで説明可

Y. Nakata et al., Phys. Rev. B 85, 205128 (2012).

S. Kajiwara et al., Phys. Rev. B 93, 075126 (2016).

シミュレーションによる比較



(P = $C^{-1}(I + \eta A)$, A: 隣接行列でフィット) バンドの対応が示された 第2バンドの対応をテラヘルツ時間領域分光法で観測



電磁双対性・バビネの原理

ヘルムホルツ方程式

マクスウェル方程式

•

$$abla imes E = -rac{\partial B}{\partial t}$$
 $abla imes E = -rac{\partial B}{\partial t}$
 $abla imes H = rac{\partial D}{\partial t}$
 $c = 1/\sqrt{arepsilon\mu}
ightarrow 波動方程式$

$$\nabla \times \nabla \times \boldsymbol{E} = -\frac{1}{c^2} \frac{\partial^2 \boldsymbol{E}}{\partial t^2}$$

 $\boldsymbol{E}(\boldsymbol{x},t) = \operatorname{Re}[\tilde{\boldsymbol{E}}(\boldsymbol{x})\exp(-\mathrm{i}\omega t)]$

ヘルムホルツ方程式

$$\nabla \times \nabla \times \tilde{E} = \left(\frac{\omega}{c}\right)^2 \tilde{E}$$

ヘルムホルツ方程式における SUSY

ヘルムホルツ方程式

$$\nabla \times \nabla \times \tilde{E} = \left(\frac{\omega}{c}\right)^2 \tilde{E}$$

$$A = A^{\dagger} =
abla imes \ (パートナーは自分自身) \ ilde{E} が解 o A ilde{E} も解$$

電磁双対性 $\tilde{E} \rightarrow \nabla \times \tilde{E} \propto \tilde{H}$ の置き替えに関して方程式は不変

マクスウェル方程式における電磁双対

マクスウェル方程式

 $\nabla \times \boldsymbol{E} = -\frac{\partial \boldsymbol{B}}{\partial t}$

$$\nabla \times \boldsymbol{H} = \frac{\partial \boldsymbol{D}}{\partial t}$$

• 電磁双対変換: $E \rightarrow -ZH, H \rightarrow E/Z$ $(Z = \sqrt{\mu/\varepsilon})$ \circ 対応する保存量はヘリシティ

0

バビネの原理



入射場: $(E'_{in}, H'_{in}) = (-Z_0 H_{in}, E_{in}/Z_0)$ $\rightarrow (E'^{\pm}_{s}, H'^{\pm}_{s}) = \pm (Z_0 H^{\pm}_{s}, -E^{\pm}_{s}/Z_0)$ $(Z_0 = \sqrt{\mu_0/\varepsilon_0}, \text{TT:}$ 完全透過, TR: 完全反射)

片方が解けているともう一方は自動的に解ける 29 of 57

バビネの原理とチェッカーボード





接続状態のチェッカーボードの透過スペクトル



低周波数で完全反射

非接続状態のチェッカーボードの透過スペクトル



低周波数で完全透過



補対:金属 ↔ 空隙の入れ替えで移り合う

ナイーブなバビネの原理: T + T' = 1 (T: パワー透過率, T': 補対問題のパワー透過率) ^{34 of 57}

チェッカーボード構造の相転移



- 応答が劇的に接点状態に依る
- 接続状態の変化による "メタマテリアルの相転移"
 → 変調器への応用可能性

相転移の中間点を特徴付けることはできるだろうか?

理想チェッカーボード

自身と補対



.

接続状態と非接続状態の間の臨界的構造

理想チェッカーボードのパワー透過率

理想チェッカーボード (T + T' = 1 and T = T'→ T = T' = 1/2):
 周波数無依存応答?



R. C. Compton *et al.*, Opt. Acta Int. J. Opt. 31, 515 (1984).
K. Takano *et al.*, Opt. Express 22, 24787 (2014).

- チェッカーボードで周波数無依存応答をさせることはできるのか?
- 接続状態と非接続状態の中間状態はなにか?

抵抗を持つ中間状態

• 抵抗で臨界性をおさえる



作製したサンプル



- c 面サファイア基板 (サンドイッチ)
- 金属: アルミ (400 nm)
- 抵抗体: Ti (19 nm, appropriately selected)

結果: 複素振幅透過率



Y. Urade, <u>Y. N.</u>, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. Lett. **114**, 237401 (2015).

結果: 複素振幅透過率



• パワー透過率 $T = |\tilde{t}|^2 \rightarrow 1/4$ for resistive one!

Y. Urade, <u>Y. N.</u>, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. Lett. **114**, 237401 (2015).





Y. Urade, <u>Y. N.</u>, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. Lett. **114**, 237401 (2015).

抵抗シートのモデル化: シートインピーダンス

$$\boldsymbol{E}_{\parallel}(x, y) = Z_{\mathsf{S}}(x, y)\boldsymbol{K}(x, y)$$

(V = RI の類似)

- K(x, y): 表面電流密度 (~ A/m)
- *E*_{||}(*x*, *y*): 面内電場 (~ V/m)
- Z_s(x, y): シートインピーダンス (~ Ω)

金属・空隙の入れ替えを拡張する必要がある

Z₀/2に関するインピーダンス反転

補対: Z_sの表面 → Z'_sを持つ表面

$$Z_{\rm s} \, Z_{\rm s}' = \left(\frac{Z_0}{2}\right)^2$$

Z₀: 真空のインピーダンス



抵抗体に対するバビネの原理



- 平面波入射
 - 入射電場 ↔ 入射磁場 (補対問題に対して)

バビネの原理

$$t + t' = 1$$

自己補対メタ表面の例

自分自身の補対と合同



この対称性は合同変換に関するものとは異なる

周波数無依存の透過率

- 金属メタ表面は通常共鳴を示す
- 自己補対性は共鳴を取り除く

Proof sketch :

- 自己補対性 → t = t' (ある条件のもとで)
- バビネの原理 $t + t' = 1 \rightarrow t = t' = 1/2$ $T = |t|^2 = |t'|^2 = 1/4$

自己補対性 → 周波数無依存応答

Y. N., Y. Urade, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. B 88, 205138 (2013).

変調応用



- c 面サファイア基板 (片側のみ)
- 金属: Al (400 nm)
 接点: VO₂ (1 μm)
- 基板の効果を補正
- $a = 75 \,\mu\text{m}, g = 5 \,\mu\text{m}, u = 15 \,\mu\text{m}$ $d = 32 \,\mu\text{m}$



バンドパス・ストップの切替

Y. Urade, Y. N., et al., Opt. Express 24, 4405 (2016).

偏光操作に向けた拡張: 異方的切替



対称性: 自分の裏側がもとの 90 度回転になっている ^{52 of 57}

異方的透過反転

• $t^{(off)} + t^{(on)} = 1$

は前述の対称性の元で次のように拡張できる:

- $t_x^{(\text{off})} + t_x^{(\text{on})} = 1$
- $t_y^{(\text{off})} + t_y^{(\text{on})} = 1$

(直交偏光それぞれに対する透過反転)

動的偏光子への応用



実装

- c 面サファイア基板 (片側のみ)
- 金属: Al (400 nm) 接点: VO₂ (1 μm)
- *a* = 106 μm, *u* = *w* = 15 μm,
 g = 5 μm, *l*₁ = 80 μm, *l*₂ = 69 μm
- 基板効果の補正済み



Y. N., Y. Urade, et al., Phys. Rev. Applied 6, 44022 (2016).

まとめ

- 電気回路の SUSY [Phys. Rev. A 93, 43853 (2016)]
- 周波数無依存応答
 - 周波数無依存応答の観測
 [Phys. Rev. Lett. 114, 237401 (2015).]
 - バビネの原理に基づく理論 [Phys. Rev. B 88, 205138 (2013).]
 - コヒーレント吸収によるエネルギーの局在化 [Opt. Lett. 41, 4472 (2016).]
- ▶ 変調器応用
 - Capacitive-inductive 切替 [Opt. Express 24, 4405 (2016).]
 - 動的偏光子

[Phys. Rev. Applied 6, 44022 (2016).]

◦ 非対称透過の切替

[EPJ Appl. Metamat. to be published (2017).]

Physics Buzz

"Physics Buzz" "checkerboard" で検索



57 of 57

Veruke Nakata, an engineer at Shinchu University, is the lead author of an uncoming

補足スライド

カゴメ格子のフラットバンド



日常生活におけるメタ表面



日常生活におけるメタ表面2



Connected Metal mesh O Optical × Microwave

Self-complementarity \rightarrow flat transmission?





- 垂直入射: 直線偏光 THz 波
- ・ $\tilde{t}(\omega) = \tilde{E}(\omega)/\tilde{E}_{ref}(\omega)$ $\tilde{E}_{ref}(\omega)$: サファイアのリファレンス信号

周波数無依存応答のための条件



- 自己補対メタ表面: 円偏光垂直入射
 - 回転型: 任意偏光垂直入射
 - 平行異動型: 円偏光斜め入射

Y. N., Y. Urade, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. B 88, 205138 (2013).

コヒーレント完全吸収



coherent perfect absorption

Y. N., Y. Urade, T. Nakanishi, and M. Kitano, Phys. Rev. B 88, 205138 (2013).

コヒーレント完全吸収の実験的実現



Y. Urade, <u>Y. N.</u>, T. Nakanishi, and M. Kitano, Opt. Lett. **41**, 4472 (2016).

Sufficient symmetry for extended inversion

(Impedance inverted off state) = $(\pi/2$ -rotated on state)



conductivity switching